

県民カレッジ主催講座 「未来をひらく鳥取学」知事講演録

平成21年6月13日

皆さま、改めましてこんにちは。本日はこんなに大勢の方にお見えいただき、本当にうれしい限りです。先程は、とっとりマナビストとして、あるいは1,000単位、2,000単位という大変な業績を上げられた方々の表彰もありました。滑りだしを迎えたわけですが、今日はちょっと暑くなってきて、皆さまもびっくりされたのではないかと思います。梅雨に入ったと思ったら急に晴れだしたりして、よく分からないもので、天気予報というのは気象庁も大変だろうなと思っています。「西瓜の青さごろごろと見て庵に入る」、これは尾崎放哉の歌ですが、そんな季節になってきたかなと思います。

この鳥取県の中部、スイカだとかメロンだとか、本当に食のおいしさが際立った季節になってきたと思います。今年は残念ながらちょっと雨が少なくて、西の日野川は渇水気味でして、さらに瀬戸内の向こうの愛媛のほうは取水制限が始まっている所もありましてちょっと心配ですが、せっかく梅雨なんだから多少は降ってもらってもと思うんですが、降りそうで降らないというような感じですね。いずれにしても季節は巡りまして、またこれから暑くなって来るわけですが、皆さんにもぜひ体には気を付けてお過ごしいただきたいと思います。気を付けてといいますと、若干新型インフルエンザの話もしなければいけません。昨日ですか、フェーズ6になりました。チャンさんという事務局長さん、香港の方ですが、前は香港はSARS(サーズ)という大変な病気があったときに随分と亡くなる方が出て大変だったんですが、あの香港で当時保健の仕事をされていた方が今WHO(世界保健機関)の事務局長をされています。「陳」と書いて「チャン」と読むのではないかと思います。そのチャンさんがフェーズ6に引き上げるということでした。パンデミックです。世界的大流行というわけです。この世界的な大流行は、確かに流行はひろがっているんですが、その程度はモデレートだと言っています。モデレートというのは、「中ぐらい」という意味です。モデレートと言うと格好よく聞こえるんですが、要は真ん中辺です。ミディアムというんですか、真ん中辺という意味ですが、そういう強さのものであるということです。

鳥取県でも、ついにというか、とうとうといますか、患者さんが発生しました。この患者さんについては、県のほうで今、しっかりと治療してしまして、その広がりを抑えるために手を施していますので大丈夫です。倉吉で流行ることはありませんので、マスクは外していただいても結構です。私は念のためにマスクを持って歩いていますけど大丈夫です。この患者さんは、アメリカのマイアミのほうでご家族で住んでおられるんですが、お父さんが鳥取の関係の方で、また神戸とかあちらのほうにも親類縁者がおられて、最初に成田から伊丹のほうに入ってこられて、伊丹で降りられた後、レンタカーで兵庫県内を回られていま

した。それで、兵庫県の北部のほうのお宿で休んでおられて、朝になって子どもさんの具合が悪いと。子どもさんが38度を超える熱が出まして、この女の子を連れて鳥取市内に来られたわけです。鳥取市内の病院に真っ直ぐレンタカーのまま行きまして、この方々が例えば街中を歩いているということならまた別の対応があるんですけども、幸か不幸かそのお宿から真っ直ぐ病院に行かれて、病院でも車の中で待機されていたんです。ですから、ほとんど誰にもお会いにすることなく診察室に入られたので、お医者さんだとか看護師さんとか、そうした病院関係の方だけがお会いになったということでした。お母さんと娘さんとお二人、今、入院先にいます。鳥取の中央病院ですけど、あちらにおられます。県のほうでは、ひろがりを抑えなくてはいけないということがありまして、接触された方には皆さんにタミフルというお薬を飲んでいただいています。発症しないよう、もし万が一かかっておられたら治るようという意味で、県のほうでお薬を処方させていただいています。患者さんの女の子ですけども、最初は38度ぐらい熱がありましたが、今朝ほどは36度6分、昨日は36度5分、そういうような状態で、食欲も出て、症状も緩和されていますので、改めて検査をやって、もうウイルスが出なければ週末いっぱいぐらいで退院する可能性も出てきているというふうになりました。ですから、正直申し上げてもう終息に向かっていますので、問題はないということだと思えます。

ただ、厄介なのはここから先です。今、オーストラリアで1,000人以上患者さんが出ていて、日本の比ではありません。オーストラリアは今から冬の寒い時期になりますから、あちらではサントクロースが暑い夏にビーチで泳ぐということですので、日本とは季節が逆転していますから、これから寒い冬がやって来るわけです。その寒い冬がやって来るときに、その周りに熱帯といえますか途上国がありますから、そちらでも流行るかもしれない。ですから、チャン事務局長は、これから、南半球にも拡大したし、途上国にも行くかもしれないということで、「これはもうパンデミックだ、世界的大流行だ」ということで各国に注意を呼び掛けているということです。だけど、風邪の程度は、従来のインフルエンザとあまり変わりません。ですから、健康な方はしっかりと治る病気です。ただ、糖尿病とか、あるいは心臓の病気ですとか、あるいは妊産婦の方とか、そういう一定の皆さんは注意をなされたほうがいいです。もし県内で流行が随分広がってくるということになったときは、県のほうでも備蓄のマスクを用意させていただいてまして、そういう重くなる可能性のある方にはお配りすることもこれから考えなくてはいけないと思っています。最初は3つの病院で受け入れをさせていただいていますけれども、13の発熱外来を用意させていただくことになっています。ですから、だんだん広がってきても当面はそういった所に行っていただきたいと思えますし、さらに流行してくるという場合は、診療所のほうでも、街中のお医者さんでも受けていただけるようになるはずですよ。その辺は追々、この病気の広がりによって皆さんにお知らせしていくことになります。いずれにしても、恐ろしい病気ではありませんので、あまり過度に対応しないでくれというのがWHOの考え方ですし、私たちもそう申し上げたいと思えます。

そんなことで、ぜひ健康に注意して、これから夏に向かっていっていただきたいと思います。今日は、鳥取県の産業、活力、雇用、そういうことを話すようにと事務局のほうからお話を頂きました。2時50分ぐらいまで時間を頂いていますので、しばらくお付き合いを賜りたいと思います。

今、世界中は、どうも景気が悪いといえます。これの事の始まりはいろいろあると思うんですけども、やはりアメリカとかそうしたものにたぶれ過ぎたかなと思うんです。私はそう思います。皆さんいろいろとご意見はあるかと思いますが。それは、学会の人たちも言っているんです。例えば、小泉さんのブレーンだった人たちがいますよね。竹中平蔵先生とか、あのお仲間。むしろ竹中さんの先生に当たるんですかね、中谷巖先生という、一橋大学の先生だった、今、多摩大学ですか、そこに行っている先生も、このたびどうしてこのようにバブル経済がはじけてしまったのか、そういう反省を込めた出版をして話題になっています。あるいは、地方自治に非常に造詣の深い金子勝先生も『閉塞経済』という本の中でも書かれていますけれども、経済に対しての考え方を最近誤ったかもしれない、というのが一つだと思うんです。昔であれば私たちが学校のとくに習ったわけですけども、需要と供給とかいまして、需要曲線と供給曲線とかいう、 \times でぶつかったところで価格が決まるんだと教えてもらったものです。要は、だんだんと需要が大きくなってくれば値段が高くなってくる。片方で、工場の生産とかで一生懸命やりますから、そうやってたくさん儲かるものですから、生産して供給してくると今度はマーケットの中に物が溢れてきますので、価格が下がってくる。これがぶつかったところで価格が決まるんですよという、そういう経済学の教えです。これが本来私たちの社会の仕組みだということだったんですけども、最近はこのが変わってきてしまったのではないかと、学者さんたちも言い始めているんです。例えば、このたび株も1万円を回復したということで、少し明るいニュースが出てきました。急に目の色が変わって株屋さんに行く人も出てきましたけど、そのように世の中は随分変わるわけですが、そういう傾向を考えていただくと、今申し上げたような需要と供給がぶつかるというのと違うことに気付かれると思うんです。すなわち、今までですと、学校で教わったのは、値段が上がってくると買いたくなくなってくる。そして、市場からの供給も増えてきますから、価格はその辺で落ち着いてしまう。高くなり過ぎると今度は下がってくるというんですね。それが普通の物の値段の決まり方なんですけど、今は、株なんかはそうですけれども、物の値段が上がってくると買いたい人が集まってきて、どんどん人がやってきて、もっと上がって、さらに買いたい人が集まってきてどんどん上がってくる。これが今の経済の仕組みなんです。だから、今までの学者の常識が通用しなくなってしまったわけです。これが非常に厄介な種だと言われているんです。

これと期を一にして、ちょっと古い話になりますが、プラザ合意とか変動相場制だとかあって、お金が世界中をぐるぐる動き回るようになりました。今皆さんも投資をするということになると、日本国内の投資だけではなくて、オーストラリアがどうだとか、インドのマハラ

ジャ債がどうだとか、中国がどうだとかいうことがありますし、こちらの鳥取中央のJAの皆さんに至ってはドバイまでスイカを売りに行くとか、そんなようなことで、何だか世界中が一つの経済になってしまっているわけです。ですから、我々の日本のお金も外に出て行きますし、外からのお金も入ってくるわけです。だから、昔々の国の成り立ちの頃とは全然違う仕組みになってしまっているんです。

お金はぐるぐる動き回ります。それは、さっき申し上げた株の話もそうですし、実は石油だとか穀物とかもそんなわけです。ちょっと前まで石油は随分高いと言っていました。急に下がってきて、また最近、中国なんか景気がいいものですから少し上がっていますよね。今、ガソリンが120円台ぐらいですか。ちょっと上がってきました。こういうように相場が動くんです。これは要は、お金を持っている人が株へ行ったり、石油へ行ったり、トウモロコシへ行ったりして、こうやって動き回るわけです。こんなことは実は誰も想定してなかったわけで、どうもこれって変だなと、最近ようやく学会の皆さんとか学者さんだとか世界中の人たちが言い始めたということだと思っんです。

ここ最近というのは、必ずバブル経済というのがあって、日本でも平成2年、3年頃バブルがありました。その後はじけて大変だった。さらにアメリカでも金融バブルがはじけたとか、日本でもITバブルがはじけたとか、グーッと何か材料があると上がっていくわけですがけれども、下がり始めると今度はみんな逃げていくわけですから、お金が国境を越えてどんどん動いてしまう。ですから、どんどんと価格が下がってくる。それで、急に資産が失われるというわけです。今また戻り相場に戻り始めていますけれども、最近2月ぐらいから戻っただけで世界中では2百数十兆円ぐらいの資産がまた膨れ上がったんだそうでして、何だか訳が分からないんです。こんなバブル経済が今実際に起こっているということで、物事が狂い始めているわけです。それで、急に失業がドーンと出たり、そういうことになってきているわけです。

日本も、世界中の経済の不況の波をくらい始めました。もともとはアメリカのサブプライムローンという、何だか片仮名でよく分からないサブプライムローンというわけですが、分かりやすくいうと、日本の住専（住宅金融専門会社）と一緒にして、要は住宅ローンです。住宅ローンを債券化して、それを売りまくったわけです。アメリカ人はこういう金融を金融工学というわけですがけれども、どんどんと膨らませてお金もうけをすることに長けていまして、住宅ローンも日本だと銀行に行って借りるだけですがけれども、借りに来た人たちのお金を、いずれたくさん金利が返ってきますから、今度はこれをばらして売ってしまおうと。そういうことで、世界中にばらまいたわけですが、金利が高いのは、実は返せない人たちが多かったわけで、いざ返せないことが分かった途端にバーッと人々が逃げていってしまった。それで相場が崩れてしまって、サブプライムローンという問題が始まってしまったわけです。アメリカからそれが動き始めましたけれども、これがヨーロッパに行くと、例えばアイスランドとかドイツだとかフランスだとか、いろんな国中が狂い始めてしまいました。そしてアジ

アにもやってきて、日本も輸出大国ですから、結構これの影響を受けてしまったわけです。それで大変に苦しい時代を迎えるようになってしまった。また、韓国だとか、中国だとか、あるいはインドだとか、好調といわれていた国々まで影響が出てきてしまった。ロシアもそうでした、資源大国だというわけですが、あそこは一握りのお金持ちがいる国でして、結構皆さん大変な暮らしをしていますから、そうしますとあっという間に資産が失われてしまって、急に冷え込んでしまい、これもまた調子が悪くなってしまった。ですから、アメリカから始まった、豚インフルエンザと一緒にですけども、こういう新型インフルエンザが世界中にまん延してえらいことになったというのが今度の金融バブルでして、経済雇用危機といわれるものです。

私たちが鳥取県でそうした経済の状態を見させていただいています。率直な動きですけど、10月頃まではまあまあだったんです。ところが、11月ぐらいになると、ドーンと落ち始め、あとはもう坂道を転げ落ちるようでした。12月ぐらい、ずっと落ちてきて、年越しの頃も、果たして越せるだろうかという心配も出てきました。それが1月、2月とずっと続いてきて、今、底のほうにきているんだと思います。そういうわけで、県のほうでもいろんな対策を今まで打ってきました。実は、全国に先駆けてやったんです。国のほうは、今、国会がややこしくて。最近もここにきて急にややこしいですね。鳩山さんとか、鳩山さんが2人いまして、鳩が2羽で誰かをつついていてるわけですが、その鳩山さん問題があります。あれもひどいですね。私もどうかなと思うんです。皆さんもお泊まりになったり、あるいはお風呂に入られた方もあるかもしれませんが、私も浦富海岸に家族で行ったとき、帰りがけに岩井温泉のかんぼの宿へ行って、お風呂に入って帰ったことがありますけど、それは立派なものです。あれが定額給付金で買えるとは思いませんでした。たった1万円で売っていたとは。早く教えてもらったら我々が買ったんだと思うんですけど。ともかくそんなことでけしからんじゃないかと、国民もそう思っているわけですし、まだまだ騒ぎは続くとは思いますが、今、政治がガタガタしています。国の政治がガタガタしているものですから景気対策も定まりません。年末のころは県で単独で、自分たちだけでもとりあえず貯金をはたいてでもやっていこうではないかということをやりました。県の職員で非常勤とかアルバイトとか、せめてそういうところで来ていただいて、当座は、すぐすぐ失業して明日も困るといような方はどうぞいらっしゃい、ということを始めたりしたんです。さらに1月には、普段はやったことがないんですが、臨時の議会を開きました。臨時議会を開いたのは久しぶりで、この前臨時議会を開いたのは平成12年10月の鳥取県西部地震のときです。あのときに、地震で大変な被害がありましたので、臨時議会を開きました。それ以来になると思いますが、そういう議会も開いて景気対策を話し合いました。さらに、2月の補正予算を組ませていただいて、当初予算を組んだりしまして、昨年度、ざっと一連のもので実に350億円ぐらいの予算規模の経済雇用対策をやったんです。鳥取県の去年の当初予算は3,379億円です。覚えやすく、「さんざん泣く」、なかなか苦勞すると、3,300億円ぐらいのうちの

350 億円ですから 1 割ぐらい。随分大きな、鳥取県としては随分頑張ったほうでして、そんなこんなでやっていて、今、多少よくなってきた会社も出てきました。それはそれぞれですけれども、例えば電器関係でいいますと、ナビゲーターがばか売れなんですってね。私もよく知りませんでした。うちの連れ合いも、1,000 円高速が始まると聞いたら急にオートボックスに行ってきて、E T C を買わなくてはいけないのに全然売っていないと。その流れですけど、急に高速道路で旅する人が増えたものですから、ナビゲーターがめっちゃめっちゃ売れている。この関連のところ結構賑わっていて、5 月の連休中、休む暇もないとか。それから、ここ最近激変に見舞われているのは、幸か不幸かということですが、株式会社モチガセさんという電機屋さんがあって、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、鳥インフルエンザの関係があって学者さんと一緒に、県も関わっていたんですが、新しいマスクを作ったんです。抗菌マスクでして、インフルエンザも殺してしまうという優れ物です。ところがこれは、鳥インフルエンザが流行ったら多分売れるだろうなというものでして、鳥インフルエンザがなかなか流行らなかったものですからしばらくは大変だったんです。それで、アレルギー対策のマスクを作り始めたりしてしのいでいたんですが、ここにきて大変なことになりました。1 日で 450 日分ぐらい注文が入るとか、そんなことで、急に業態が変わってくる会社もあったり、いろいろです。

正直申し上げます、中国が随分よくなりましたので、鳥取県の場合はほかの県と違ってすごく特徴があるんです。雇用のうち、製造業関係は 5 割ぐらい電器関連です。電器とか電子関連でして、よその県ですと 10 数%ぐらいですから、すごく多いんです。ですから、輸出に依存していますので、今回だいぶ大波をくらったんですね。今日現在ぐらいで大体 2,900 人ぐらいですか、雇い止めで悩んでおられる方が正直おられます。これは、積み上げて、積み上げてですから若干重複があると思いますが、そういう状態です。ですから、中国だとかそうした海外のほうに戻ってきて、いろんなこれからのテーマが生まれてくると変わってくる。今、変わり目のところに来始めているようでして、上海のほうに注文を取りにいったら、取れないかと思ったら随分取れたとって帰ってこられた方々がおられたり。だから、だんだん変わり目にきていると思います。それから、鳥取県の場合は他県と違ってすごく多いのは食品関連産業で、大体 20% ぐらいあるんです。よそだともっと運輸関係、要は自動車関連の企業で働いている人が多いんですけれども、鳥取は自動車の大きな工場があるわけではありませんで、その関連で、例えば金属板の工場だとかいろんなものがありますけれども、そうしたことで食品だとか電器に特化しているんです。ですから、今回特に電器関係を中心として随分波が荒っぽくかかってしまったというのが現実なんです。

今、6 月議会を開いて新しく議論しています。国のほうでも今回は補正予算がとりあえず成立しましたので、それを活用させていただいて、今度は補正で 306 億円の経済雇用対策を中心として、「鳥取県活力あんしん創造プラン」というのを作りました。これは、そうした経済雇用だけでなく、これからの先を見据えたものとか、新型インフルエンザ関係の安心対策

とか、そんなものも入れてですけれども、総額 308 億円の予算のうち 306 億円ぐらいそうした「活力あしん創造プラン」というのを作ったんです。

この「活力あしん創造プラン」ですけれども、いろんなテーマを付けさせていただきました。私は、冒頭申し上げたように、どうも最近の金もうけ中心主義の、アメリカ型のやり方っておかしいんじゃないか。もっと我々の、地べたに近い、現場に近いところからもう一度組み直していく必要があるのではないかと思うんです。例えば、中谷先生なんかも同じようなことを言っています、やっぱり日本は日本人だと。日本がアメリカと違うのは、あまり変な階級社会ではない。日本も確かに昔は階級社会のときがありました。江戸時代は「士農工商」とかいいまして、武士が一番威張っていたわけですが、その武士が一番威張っているということを表す言葉が「武士は食わねど高楊枝」ですから、武士がお金を儲けようとしなかったわけです。ただ、アメリカはお金持ちが偉いという国ですから、とにかくお金を儲ける人はどんどんお金を儲ける。そのための仕組みが金融工学でして、一握りの人がお金を動かして資産を運用して売り抜けるという世界です。ですから、そういうのはそもそも日本にはあまりなじみがないので、構造改革をやり過ぎたのではないかというのが中谷先生の考え方です。確かにそうです。日本はそういう意味で江戸時代もそういう考え方ですから、悪いのは水戸黄門に出てくる「越前屋」とか、あの世界です。「お主もワルよのう」とあの世界ですので、そもそも日本というのは、もっと人間同士のつながりを大切にするとか、労働に対する崇拜があるのではないかと中谷先生も書いています。

やっぱり職人さんというのはすごいですよね。この倉吉でも、例えば倉吉緋とか、あるいははこた人形とか、ああいう伝統工芸がありますし、上神焼とかきれいな焼き物があります。昔からその技法というのを受け継いでやっているわけです。さらに、先端的な工場でもそうです。株式会社寺方工作所さんとかそうした工場がありますけれども、私はとにかく鳥取の技術だとか産業を全国に売り込まなくてはいけないと思って、いろんな呼び掛けをさせていただいたんですけど、トヨタさんとかに、板金ですけれども、その製品を持って、展示して、商談会をあちこちでやっているんです。当時はまだトヨタの調子がいいときでしたから、名古屋のトヨタに行きまして展示をしたら、渡辺さんという当時の社長さん、今は創業家が社長になるということですが、渡辺社長さんが見まして、「これはすごいな」と言うんです。私はそのすごさが実はよく分からなかったんですけど、こうやって金属を加工すると必ずひずみが出て、少し出っ張りが出て、とげとげしくなる。そうですよね、何かたたいたり伸ばしたりすればどうしても角が出ます。それを丸めて処理しているんです。丸く。これってなかなかできないことだんですけど、やっぱり最先端をいっているプロが見ますと「これはすごい」というのが分かるみたいです。あるいはセンサーの技術とか。これは東部の日本セラミック株式会社さんとかがありますけれども、これなんかは世界シェアが大変大きいものです。こういう隠れた技術だとかそういうものが実は鳥取県内にはいっぱいあって、こういうものを日本人は大切にしてきたんだと思うんです。確かに、お金の価格だけだっ

たら外国にかなわないかもしれません。しかし、我々のそうした技術だとか、あるいは労働に対する誠実さというのをもう一度中心に据えて考えていけば、産業構造も変わってくるのではないかなと思えるんです。

あるいは、暮らし方なんかも大切でして、最近随分価値観が変わってきたと思うんです。前だったら 트렌ディードラマとかいいまして、テレビでも大都会の素晴らしいのがなんとなくうれしいということだったと思うんですけれども、しかし、今だいぶん時代も変わってきて、やっぱり人間は人間のリズムで生きるわけですから、心臓の鼓動にしる、息使いにしる、みんな同じなわけです。都会の急に秒針の刻み方が速いような所に放り込まれていくのはストレスが溜まるに決まっているわけです。大山だとか天神川だとか、そうした風景を眺めながら自然の中で生きていく。また、人々のコミュニティーの温かさ、これをしっかりと感じて生きていく。これがもてはやされるような時代になってきているように思います。価値観が変わってきているんですよ。私たちは、経済対策を始めて、随分背伸びをしながらいろんな施策を打ち出したら、いろんな発見がありました。意外だったのは、鳥取県で「鳥取暮らし農林水産業就業サポート事業」というのをやったんです。今まで農業とかの一次産業には後継者不足があって、今も大変です。中山間地を中心として遊休農地がありますから、「どがにかせないけんだらう」とみんな思っているわけなんですけれども、何せ耕す人がいない。どうしようもないので置いておかざるを得ないということがありますが、そういうのを担い手としてやってくれる人たちを全国から募集したわけです。県内の失業された方も含めて、随分応募がありました。4月までで197人応募があったんです。募集したのはたった2～3カ月ですから、それでそれだけ集まってしまった。実は足りないんです。まだまだおられまして。ですから、今度議会を開いているんですけれども、これでまた160人以上の枠を増やそうと考えているんです。何が変わったかということ、製造業だとか、あるいは都会地のいろんな産業、サービス業だとかそういうものだけでなく、やっぱりもう一度食の安全、安心だとか、そういうことを考えた仕事に就いてみようという興味、関心が広がってきたことが一つあると思います。もう一つは、U・I・Jターンといわれるように、移住者、こちらのほうにやって来る人たちが出てきている。鳥取市でも、200人を超える移住者が出てきているということです。実は鳥取は、京阪神とか山陽からそんなに遠くありませんので、住んでもらうにはいい距離感ということがあると思うんです。ですから、それを生かしていけば、こちらのほうに人を呼び込んでくることもできるのではないかな。すなわち、場所のシフトと産業のシフトが二重に今起こってきているんです。このトレンド、流れをしっかりと我々のほうで引き寄せることができれば、雇用とか産業だとか、ひいては暮らしを変えていける、そういう材料が今見え始めたのではないかなと思うんです。

それをやっていくために、今度予算なんかも出させていただきますけど、いろんなテーマがあると思うんです。一つは、今申し上げた農林水産業だとかをもう一回元気にしようということです。いろんなことがあります。例えば、遊休農地をもう一度耕せるようにしましょう

と。実は、昨年度、それぞれの市町村の遊休農地を調べることになって、その集計が出ています。今分かっているだけで全県で1,000ヘクタール弱遊休農地があって、もう元に戻しようがないものを除いても1,000ヘクタール弱ぐらいある。すぐにでも戻せるものもありますし、手を加えて荒れたところを直していけば使えるというものもあります。今、私ども県のほうで議論していますのは、市町村と一緒に荒れた遊休農地をもう一度耕せるようにする、その事業費を持ち主の方の負担を求めずにやってしまっただろうかと。そうすれば、遊休農地が一遍で農地に生まれ変わるかもしれない。少し思い切ったやり方ですけども、これをやってみようかと今考えています。これと合わせて、さっき申し上げた「農林水産業就業サポート事業」のように外から人を呼び込んできたり、県内での集落営農とか、認定農業者などを中心として、元気な農業体を育てていく。企業さんからの参入も結構最近は出てきました。変わりましたね。中部でも、建設事業をやっていた企業さんの中から、長芋を作って結構売っておられたり、中には、NHKの朝のニュースでも取り上げられているところもありました。西のほうでは大山にサントリーが工場を造りましたが、そのサントリーの工場のすぐ下に広大な遊休農地があったんです。それをブルーベリーの農園に変えまして、これもやっぱり建設業の方です。やっぱり建設業の方はすごいですね。機械を持っていますから、あっという間に農地に変えていきまして、あっという間にブルーベリーを植えていくわけですけども、それが大変流行っていきまして、何千人という人が来るわけです。そうした観光農園なんかを手掛ける企業さんが出てきたり、そうして鳥取の農業の姿を変えていけないだろうかということです。外に持って行って売ることも大切です。この意味では、今から大交流時代が始まります。この大交流時代を上手にとらえていけば面白いと思いますし、いろいろと工夫していくべきだと思います。

実は、もう去年の8月になりました、今1年弱経ちましたけれども、東京の銀座の外れの所に汐留という所がありますが、全日空だとか電通だとか、そうした本社ビルがあるそのすぐ隣ですけども、その境目の所に「食のみやこ 鳥取プラザ」というお店をつくったんです。ちっちゃなお店ですけども、アンテナショップというわけです。いろんな人たちがそこでテスト的に販売してみて、そこにバイヤーの人たち、買い手の人たちも来て、なんだったらそれを手広く売っていくきっかけになればいいと。またこちらのほうも、こういう物だったら消費地で評価されるんだなというのを知るチャンスにもなる。そんな意味でアンテナショップをつくりました。1階は売店で、2階はレストランです。これは、受託して実際に運営していただいているのは倉吉の企業でして、駅前にあるセントパレスさんのところですけど、長生堂さん。あそこが受託されて、非常に苦勞されながら今1年近くやってこられました。結構流行っています。採算はもともとぎりぎりのところで組んでいますから、ほろもうけするということでは当然ないわけで、なんとか回すようにしていただいていますけれども、非常にお客さんの評判がいいです。2階のほうはレストランでして、これは「オステリア・モンテマーレ・トットリーネ」という、イタリア語で難しい名前が付いていますけれど

も、なかなか覚えられないかもしれません。「オステリア・モンテマーレ・トットリーネ」。この「オステリア」というのは「食堂」ということで、イタリア語だそうです。「モンテマーレ」というのは、「モン」はモンブランだとか「山」、「マーレ」は海でして、要は海と山の幸ということですが、「モンテマーレ」。「トットリーネ」は、イタリア語ではなくて鳥取弁だそうです。「鳥取がいいね」という意味で「トットリーネ」と付いているんですけれども、その「トットリーネ」ということでやっています、ここは今結構当たっているんです。つい今月号では、『日経トレンディ』という雑誌がありまして、ここで取り上げられています。ご覧になりましたか？ そこでも出ていますし、朝の山陰放送の中で『はなまるマーケット』というのがあるんですか。私は見たことがないですけれども、その番組でも取り上げてもらったと。ご覧になった方もおられるかもしれません。実は100件以上、この1階、2階がマスコミに取り上げられているんです。マスコミだとか、あるいはインターネットのいろんなサイトとか、そういうので取り上げられていまして、『週刊文春』でも「気になるレストラン」とかそんなコーナーがあるそうです、そこで取り上げられました。何がウケたかといいますと、イタリア料理を鳥取の物で作るということ、どげなもんができるんだろかなと思いましたが、すごいです。行ってみると値段はそれなりです。銀座の外れですから。ランチはパスタランチ1,000円とかそういうものですが、ただ大変おいしいです。例えば、季節によればズワイガニとか、あるいはトマトとか。トマトは倉吉のトマトです。多分大原かどこかだと思いますけど。倉吉とかそういう所から食材を買ってきて、向こうへ送って、それでやるわけです。マコモタケってご存じですか。タケノコみたいですが、野菜です。こんなのをソテーにしたりして。イタリア料理ですから。それから、話題を呼んでいるのはトトリコ豚という豚ですが、これはやっぱりドングリを食べさせるんです。韓国語で「トトリ」というのがドングリなんです。だから、トトリコ豚という。鳥取というのは、いろんな説がありますが、我々は「鳥取部（ととりべ）」の「ととり」からきているのではないかと考えていますが、韓国の人に説明するときは、「ドングリがあるからです」というのが分かりやすい。韓国人は鳥取県というと「ドングリ県」という感じがあるから。トトリだからトトリコ豚だと。こういうことで売り始めたら、これがまた芳醇な味わいのもんです。これは米子のほうのお店が作っているんですけど、なかなか数がありません。そのトトリコ豚のいろんな料理だとか、そんなものを出しています。

1階の売店も、最初出だしのときは我々も試行錯誤でお店のほうもやっていたんですけど、やっぱりやってみてよく分かったんです。鳥取の物で何が売れやすいか、お客さんは何を買いに来たいか。新鮮な物です。鳥取のイメージってそうなんです。おいしい、新鮮、安全、そんなイメージなんです。ですから、生鮮品が結構売れる。生鮮品が出ている月は売れる。例えば、梨の月は売上が多い、カニの月は売上が多い。そんな感じなんです。ですから、毎日新鮮な野菜を置いてみようではないかということで、こちらの倉吉の久米のここに

こ市があちらへ出店を出しているんです。東京で。にこにこ市さんから送りまして、いろんな物を並べるんです。最近では2階のレストランと結託と言う言葉は悪いですけど、だいぶ提携されていて、久米のほうではイタリア野菜を作るようになっていまして。変われば変わるもので、ズッキーニとか、こうやって展開してくると結構面白いんですよ。鳥取もそういうふうには元気を出していく、産業を興していく、そんなやり方があるのではないかなと思います。

観光もそうです。連休中も結構白壁土蔵群だとか賑わっていました。県外ナンバーが増えましたね。増えたと思います。特に今回は、鳥取砂丘とか水木しげるロード。水木しげるロードは24万人ぐらい連休中に人手があって、砂丘のほうは28万人ぐらいでした。あちらのほうは「世界砂像フェスティバル」をやっていて、31日で終わってしまったんですけど、何で5月いっぱい、もったいない、2カ月ぐらいで終わらせるかなと皆さん思うかもしれませんが、なぜだか分かりますか。あれは、梅雨がやってくるからです。雨が降ると壊れますので、壊れないうちにやめたんです。そういうことで5月いっぱい終わってしまったんですけど、この「世界砂像フェスティバル」が幸い話題を呼びまして、お客さんが来ました。大渋滞が起きまして、大渋滞が起きた場所が非常に悪くて、地元の日本海テレビの本社前が大渋滞しまして、毎日日本海テレビさんが「こげな渋滞を起こして」と報道されていましたが、とにかく久方ぶりの渋滞ができるほどお客さんが来た。これは幾つか理由があります。一つは、鳥取自動車道が通りました。それから、高速道路が1,000円になった。さっき申しましたけれども、これはこちらから向こうに遊びに行く人もいるわけですけども、私も商売柄よくやるんですが、数えて見ますと、やっぱり向こうから来る人のほうが圧倒的に多いです。だから、鳥取はもうかりました、正直。もうかったと思います。

私も高速が1,000円になるときに、最初に「ようこそようこそ鳥取県キャンペーン」をやろうと急に呼びかけました。一つは鳥取の入口の所の蒜山のサービスエリアの所。米子自動車道。それからもう一つは、鳥取自動車道の終点の河原インターチェンジの所でやったんです。サービスエリアとか道の駅でグッズを配ったんです。鬼太郎のカレーだとか。また、当時はちょうど旧暦のひな祭りの季節でしたので、3月29日ですか、そのお菓子なんかも配ろうとやったんです。1,000個ほど用意したら、あっという間になりました。朝の10時に始めたんですが、列ができるわけです。ただ、役所がやるキャンペーンってすごいなと私も思ったんですけども、県外のお客さんに限ってやりましょうというキャンペーンだったんです。そうしたら、県の職員はみんなまじめなのでいろいろと考えた末だったと思うんですけども、マニュアルが出来上がりました。まず到着した車のナンバーを調べる。県外車であれば列のほうにご案内する。そこで列に並んでいただいて、免許証を拝見。確かにあなたは県外です、というとお土産を渡すという仕組みだったんですが、ちょっとやり過ぎたかなと思ってその後はやめたんですけども、そういうことで始めましたら、本当に遠くから来ているんです。大阪のほうはやっぱり多かったですね。それから、意外に多いのは四国のほうです。

四国の方々は今まで瀬戸大橋とかを越えるのが大変ですから、嫌なので島の中にいたんでしょうね。1,000 円に安くなったものですから、急に出てこられたと。四国の人たちは日本海が珍しくてしょうがないわけです。向こうは瀬戸内海と太平洋がありますけれども、日本海はないものですから。こちらのほうにやって来る。そんなことで四国のお客さんが多かったですし、私も「どこからお見えになりましたか」と聞いたら、「神奈川県から来ました」と。朝の 10 時ですから、一体どうやって来たのかなと。ご家族 4 人、お子さん 2 人で。新潟から来たという人もいましたしね。そういうように人の流れが変わったんです。パソコンのインターネットってありますよね。あれと同じことになったと思うんです。インターネットがすごく流行っているのは、どこでも別にお金の値段は変わりません、電気代だけで無料です。高速道路も 1,000 円だけでどこでも行けるわけですから、それだったら遠い所に行ってみようかと。今まで行ったことが無い所、ミステリアス鳥取県に行こうではないか、こんなことで多分お客さんが来たのではないかと思うんです。そして、確かにお客さんは増えました。こういうのをしっかりと私たちは利用すべきだと思うんです。少しここはガツガツと、商売人根性を出してやってみたらどうかと思うんです。倉吉近辺ももとはといえば淀屋がいた所だということですから、商売の血は流れていますので頑張ってみようかということですが、ともかくそうやってお客さんが増えてくる。だから、「ようこそようこそ鳥取県」を頑張ってみよう。

今、県でも条例を作ろうとしています。もてなしの心とか、そういうものを育てようではないか。あるいは、地域のすごい素材を拾い出して検証していこうではないか。こんなことを始めようということです。最近始まったいろんなツアーが中部でもあります。例えば、「ミルクメロンツアー」。メロンの葉っぱに粉ミルクのあれをかけて、それで減農薬で栽培するメロン栽培ですとか、それからスイカの選果場のツアーとか、二十世紀梨のツアーとかですね。本当はこれからは海外だと思うんです。日本人は、数はたかだか 1 億人です。隣の中国とかインドとかを考えてみたら、世界中の人を相手にするともっと人がいます。垣根が外れてきます。

鳥取も今度海の向こう側に行く航海を始めることになりました。今まで日本海時代とか言いながらも、全然日本海時代らしいところがなく、米子-ソウル便が通じているというぐらいでした。いよいよ待望の船を出そうと。この船は、だいぶん苦勞して、走るの走らんということで報道機関の皆さまもイリイリされて、記者会見のたびに私も詰められていたんですけども、ようやくこの 6 月 29 日に韓国の港を出発することになりました。境港に、6 月 30 日に入ります。そして、7 月 1 日にこちらを出港して東海(トンへ)という所に行くんです。その後、今度はロシアのウラジオストクに行くと。韓国との間は週 2 便、さらにロシアとの間は週 1 便、定期航路が動きます。これがいろいろと面白いところになっていて、時間がかかったのには訳がありました。船を改造していたらしいんです。大変に凝っておられて、名前も「DBSクルーズフェリー」とうふうに「クルーズ」という名前が付いていたんです。

私も、クルーズって一体何なのかなとよく分からなかったんですけど、要は地中海だとかエーゲ海とか、ああいうクルーズをイメージできるような、そんな航路を拓いてみようではないかということだったんです。ですから、中も非常にゴージャスに改装されていて、もともとは鹿児島の大隅大島のほうを走っていた船ですけども、それを買い取って。だから、台船は日本船なので、しっかりしているわけです。その中を改造して、そこにいろんなものを付けよう。経営者の方々が張り切られて、プールを造ろうとかジャグジーを造ろうとかいろいろやったらいいですけども、プールを付けにかかったら、今度は、水を載せると重過ぎていけないとか言われてしまって、結局出来上がって見たらプールはなくなったんですけど、それはともかくとして、展望デッキがあったり、ものすごく眺望のいいレストランがあったり、スイートルームがあったり、それから普通の船室があったりするんです。釜山から下関まで、今、非常に人が乗っているフェリーがあります。これが2等船室で8,000円。境港から東海に行く船も12時間乗る船で、向こうよりは長く乗るんですけども、これも2等の雑魚寝的な部屋、ごろ寝の部屋では8,000円です。片道8,000円は非常に安いですよ。驚きです。しかもいろんな部屋があって、一番いい部屋はものすごくデラックスな部屋ですけども、スイートルームみたいなツインの部屋ですか、そういうところでも片道2万円弱ぐらいのことです。中にはナイトクラブがあったり、韓国式サウナ、私はどんなものが分かりませんが、そういうものがあったり。ですから、船旅をゆったりと楽しむ、そういう使い方もできるようになっています。これがいよいよ走りだすことになります。また、船体には貨物も積みますので、貨客船航路ができる。

実はこれは大競争をやっています、うちがこの時期に走りだすぞと決めたら、途端に新潟のほう騒がしくなって、あちらも無理やり走らせるんです。新潟から韓国とロシアと。でも、東日本と西日本ですから、正直ターゲットが違いますので、今やっています。これから追々明らかになってくると思いますけれども、最初は記念ツアーをいろいろ用意しようではないかということでして、今、読売旅行さんがツアーを大々的に組もうとしています。この夏場に入って、35周年か何かの読売旅行の記念があるそうなので、いずれこういうのが出てくるんだと思いますが、東海という街に行きまして、そして観光してすぐに帰ってくるわけです。要は船ですから、夜行便で行って、向こうで1日楽しんで、夜行便で帰ってくる。金曜日の夜に出て、土曜日に向こうを見て、日曜の朝帰ってくるというツアーです。こんなので今いろんな相談をしてみたんですけど、皆さん、そのオープニング記念ツアー、幾らだったら行かれますか。今、計画しているのは、どうも1万円ちょっとぐらいみたいです。驚きです。これからいろんな驚きがあると思うんですけども、要は時代が変わることです。今度は逆があります。向こうからこちらでもオープニング記念ツアーを多分やりまして、ハナツアーという、こちらでいうとJTBみたいなものですけど、大手の旅行ツアーが大挙して、向こうから2,000人ほど送り込んでくる。そういうようになってきますと、こちらでも三朝温泉だとかいろんな観光地がありますけれども、受け入れのことも考えてホスピタリ

ティーをよくしていけば国際的なリゾートになってくるかもしれない。この日本海で初めてのクルーズフェリーがどうなるかというのは、注目されるのではないかと思います。

こういうように大交流時代が始まり、さっき司会者からも話がありましたが、これからは中国地方の中の鳥取県で、岡山県とか島根県ともターゲットを一緒になってやっていこうではないか、広域観光とかもやっていこうではないかと思っていますし、さらに近畿ともつながりをもっていこうと。近畿の知事会に今度入りまして、先般近畿の知事会の皆さんに鳥取の青谷に来ていただいて、あそこに「ダイキンアレス青谷」というダイキン工業。電器のダイキンさん。あのダイキンさんが研修所を造ったんです。研修所といってもとてもグレードの高い研修でして、恐らく日本海側で一番いい建物ではないかと自慢しているぐらい、アフリカから持ってきた木で造ったフローリングとか、窓ガラスがすごくきれいです。やっぱり海が見えます。その向こうは鳴り砂の浜ですけれども、その窓ガラスがすごくきれいだなと思って聞いてみると、「これは宝石屋で使っているガラスです」と。なるほど、きれいなはずだ。金に糸目を付けずにやっておられて、そこで会議をやったんですが、やっぱりダイキンさんの研修所ですから、空調が効いていました。そこで、橋下大阪府知事さんとか、京都とか兵庫とか皆さん来られまして、これからの戦略を練ったりして。さらに境港に、橋下知事も連れて行きました。橋下さんも一応私と同じ業界なんですけれども、ちょっと業種が違うような気がするんですが、一緒に県のマイクロバスに乗って移動したんですけど、バスの中では非常に硬い表情もされて。仲間なので和やかに話はしているんですけど、バスを降りる前に、さすが、秘書さんにちょっと振り向いて鏡を持ってこさせて、ちょっとチャチャッとやって。それで、降りて目の前に鬼太郎のぬいぐるみがいたら、「おい、鬼太郎」とか言って、やっぱり違うなと思いました。そういう橋下さんにも来ていただいて、これは関西のニュースで取り上げられましたから、ノーギャラで随分いい宣伝をさせてもらいました。そんなように大交流時代が始まっています。こういう中で、私たちも産業構造を変えていったり、あるいは農林水産業や観光とかに元気を出して、これから雇用や経済の再生を図っていきたいと思います。ぜひ皆さんも、身の回りでできることがいっぱいあると思いますし、何かこういうようなアイデアで鳥取の産業がよくなるのではないかなということがあったら、どんどん県庁のほうにもお知恵を頂ければありがたいと思います。

時間がまいりましたので、これでお終いにさせていただきたいと思いますが、やっぱり地域づくりは一人一人の力からできるわけです。ゲーテはこう言っているんです。「私にこの地方を説明しろというのか。それなら自分で屋根の上に上りなさい」。そういうように、私たち一人一人がもう一度地域を見つめ直すいい機会にこの県民カレッジがなっていたらいい。そんなように思います。皆さまのこれからのますますのご発展、ご健勝をお祈り申し上げて、私からの話とさせていただきたいと思います。本当に今日はありがとうございました。